

令和3年度中学校武道授業(剣道)指導法研究事業



令和3年度中学校武道授業(剣道)指導法研究事業〔主催＝日本武道館・全日本剣道連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁〕は、令和3年8月14日(土)に全国の研究者15名が参加して、オンライン会議システムにより実施された。

本研究事業は、10月29日～31日(千葉県勝浦市)と11月19日～21日(奈良県奈良市)で開催予定の「令和3年度全国剣道指導者研修会」に向け、指導内容について発表・協議が行われた。

開講式では、吉川英夫日本武道館理事・事務局長が挨拶を述べた後、研究者の代表として網代忠宏全日本剣道連盟副会長が挨拶を述べた。

開講式後、全日本剣道連盟常任理事・学校教育部会委員長の軽米満世研究者が、前回の研修会の参加者感想文をもとに、本年度の研修会実施に向け有効な項目を発表した。

次に、流通経済大学教授の柴田一浩研究者から、新学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた剣道指導について発表があった。ここでは、新たな学習指導要領における授業づくりの考え方を学び、高校でも剣道を選択したくなるような授業づくりの説明がなされた。

続けて福岡県行橋市立泉中学校校長の藤田弘美研究者からは、新しい教育課程では学習評価をどう捉えているか、具体的にはどのように授業を行っていけばよいかという2点を柱に、本年度からの学習評価について発表があった。

栃木県教育委員会副主幹の山田博子研究者からは、生徒たちが、「何ができるようになるのか、何を学ぶか、どのように学ぶか」というこ

とについて、主体的・対話的で深い学びの視点に立ち授業の改善をしていくよう発表があった。またその後、グループ学習の紹介があり、木刀・竹刀を用いた授業例や、簡易試合を通しての進め方が説明された。

続いて、慶応義塾大学准教授・全日本学校剣道連盟事務局長の吉田泰将研究者から、全日本剣道連盟・社会体育指導員養成講習会(上級)演習の導入について説明があった。全国研修会においては、受講生を教師と見立てた指導法を行うとの発表があった。

次に、全日本剣道連盟参与の百鬼史訓研究者から、剣道用具の安全管理と熱中症及び新型コロナウイルス感染症予防の留意点について発表があった。安全点検を怠った竹刀を使うことにより重大な事故が発生する可能性があるため、学校授業・道場においては各人が竹刀の安全点検を習慣化させる必要があると述べた。また、新型コロナウイルス感染症対策として着用するマスクについて、全日本剣道連盟作成のガイドラインのほか、各々の環境に合った適切な方策を講じ、熱中症を引き起こさないよう注意するよう述べた。

軽米研究者から、新型コロナウイルス感染症予防に留意した、中学校における剣道授業の展開(手引き)の発表があった。

最後に全国研修会に向けての協議がなされた後、閉講式は網代研究者の講評と、中島昭博日本武道館振興部振興課長が挨拶を述べた後、終了した。